講義内容

○2019 年度 合同講義＜前編・後編＞（結核研究所）

テーマ：低まん延化間近となった本邦における新たな結核対策

講義の目的：

本邦における新登録結核患者は 16,789 人（結核罹患率人口 10 万人対 13.3［2017 年］）と減少傾向にあります。一方、外国出生の結核患者は増加の一途にあり、全年齢では 9.1%、15-19 歳の年齢階層に限るとすでに 66.7%と 2/3 を超えました。これに伴い、外国人の多い職場や日本語学校等で外国出生者の関わる結核集団発生が報告されており、日本人の同僚への感染も認められています。また、高齢者における結核罹患率も減少しつつありますが、減少速度は鈍化しており、診断の遅れに伴う医療機関等における結核集団発生も報告されています。

このような状況の中、平成 28 年 11 月 25 日に厚生労働省は結核に関する特定感染症予防指針を一部改正し、ストップ結核ジャパンアクションプランで目指している 2020 年の結核罹患率の低まん延化に向け、日本における結核対策の新たな方向性が示されました。

今年度は、結核対策技術者に必要な結核対策の基本や最新の疫学状況に加え、ここ数年の新たな結核対策の現状をご紹介し、低まん延化に向けた対策について課題を共有します。

講義内容（予定）：

1. 結核の基礎知識
2. 結核の疫学状況
3. 外国出生結核患者の発生状況と対策
4. 高齢者の HREZ 4 剤治療について
5. 日本結核病学会、「結核医療の基準」の改訂―2018 年
6. 多剤耐性結核治療の世界的趨勢及びデラマニドの使用について
7. IGRA 検査と LTBI 治療・管理のポイント、QFT-Plus、LTBI 治療の副作用の経験
8. 最近の集団発生から（日本語学校、精神病院、まんが喫茶等の概要）
9. 結核分子疫学調査手引、接触者健診の手引き 運用のポイントについて

○2019 年度 合同講義(厚生労働省)

テーマ：結核低まん延化に向けた今後の対策の方向性

講義内容：

1．結核の疫学情報　過去から現在
2．対策を強化すべき対象
3．高齢者の結核対策
4．外国出生者の結核対策
5．その他のトピックス

○2019年度 医師講義

テーマ：結核診療 －診療の基礎から最近の話題まで －

講義の目的：
本邦では結核患者が順調に減少しており、地域によっては低まん延化したところもあります。それに伴ってか、結核診療の専門家の減少が著しく、地域によっては結核診療の維持が困難になってきていると考えられる地域も増えてきています。このため、結核診療におけるプライマリ・ケア医の役割は今後増加してゆくと考えられます。本講では、プライマリ・ケア医に必要な標準的な結核診断及び治療の知識についておさらいし、加えて最新の知見を紹介し、結核診療への理解を深めていただきます。

講義内容（予定）：
1．結核の診断および治療の基礎
2．結核診療における抗酸菌検査の役割
3．新しい検査法、治療薬
4．診断、治療が難しかった事例の提示

○2019年度 保健師・看護師講義

テーマ：結核のない世界を目指して　～様々な職種とつながる支援～

講義の目的：

近い将来日本における結核患者のほとんどが超高齢者と外国出生者で占められることになると推計されています。このため、結核患者に対する療養支援は、専門家のみならず服薬支援や通訳、日本語教育に関わるボランティアやNPOなど、様々な職種の人たちがつながる支援の重要性が認識されています。

現在、課題となっている高齢結核患者の早期発見や地域における介護を含めた療養支援についても、保健所と介護関係者がつながることで、これらの協力が促進されると考えられます。

また、外国出生結核患者に対する支援も、医療機関、保健所のみならず、通訳（団体）、国際交流協会、福祉事務所、大学、NPOなど、地域の支援者・ボランティアともつながる生活全般の支援が必要となってきています。

この講義では、どんな職種であっても、地域のネットワーク構築のためにできることを皆様と共有できれば、と考えております。

講義内容（予定）：

1．結核の最新情報と基礎知識

服薬支援者として必要な結核の基礎知識

2．医療・保健・福祉等との多様な連携

1） 早期発見

2） 治療の徹底（LTBI含む）

3） 地域包括ケアのなかの結核対応と連携

4） 外国出生者の対応と多機関との連携

3．院内施設内感染防止対策

高齢者施設等の対策

感染管理認定看護師との連携

抗酸菌症エキスパート制度の紹介

4．資料紹介

ＤＶＤ（新作：在宅高齢者の結核対応）、禁煙支援マニュアル、アプリ、・・・

○2019年度 診療放射線技師講義

テーマ：低まん延化に向けた対策のポイント・医療被ばく管理の動向

講義の目的①：「低まん延化に向けた対策のポイント」

本庁や保健所、病院や検診機関に勤務する診療放射線技師を主な対象とし、低まん延時代を見据えた結核対策の様々な課題について取り上げます。

講義では、結核症や結核対策の基礎的な内容を踏まえながら、患者発見方策、接触者健康診断、IGRA検査、VNTRを用いた分子疫学調査、潜在性結核感染症(LTBI)、日本版DOTSなどについて判りやすく解説します。さらに、先進的な結核対策特別促進事業の紹介や、結核の行政事務業務における課題について情報提供を行います。

講義の目的②：「医療被ばく管理の動向」

医療被ばくは技術の進歩とともに世界的に増加傾向にあり、特に日本は放射線診断機器の数が非常に多く、患者一人当たりの線量も高いことから、被ばく線量の最適化が課題となっています。

折しも、2018年4月の診療報酬制度の改定では、特定機能病院における医療被ばくの線量管理の最適化がスタートし、2019年3月12日には医療法施行規則が改正され、一般病院にも診療用放射線に係る安全管理体制の確保が2020年度から義務づけられることとなりました。

講義では、放射線防護の基礎知識を確認すると共に、接触者健診で用いられるＣＴ検査の被ばく線量の考え方や測定法についても詳細に解説します。

具体的な講義内容（予定）：

- 結核症の「感染」と「発病」
- 効率的な患者発見方策
- 接触者健康診断の基本的な考え方
- VNTRを用いた分子疫学調査体制
- 潜在性結核感染症(LTBI)の積極的な推進
- 日本版DOTSをさらに推進するための方策
- 放射線防護の基礎知識
- 診断参考レベル（DRLs2015）を活用するためのポイント
- ＣＴ検査の被ばく線量の考え方や測定法
- 医療被ばく管理の動向

主な対象者

本庁・保健所・病院・結核予防会支部・検診機関に所属している診療放射線技師 等

保健師・看護師・臨床検査技師・薬剤師・事務職員など、他の職種の方の受講も可能です。

参加対象者について

一般の医療機関に勤務する様々な職種の方々にも有用な内容を含んでいるため、ブロック内の病院や検診機関への積極的な参加勧奨をお願いできれば幸いです。